

日本CT検診学会

夏期セミナー2026

第29回読影セミナー／第6回CADセミナー／第19回技術セミナー
第7回COPDセミナー／第8回大腸CTセミナー

ライブ配信 2026年7月25日(土)

オンデマンド配信 2026年8月5日(水)



主 催：特定非営利活動法人日本CT検診学会

—— プログラム ——

10:20 ～ 10:25 開会挨拶 満崎 克彦 先生（済生会熊本病院 予防医療センター）

10:25 ～ 11:25 第29回 読影セミナー

世話人・座長：石川 浩志 先生（新潟大学 大学院 医歯保健学研究科 放射線医学分野）

講演：「良悪鑑別の基本とピットフォール」

石川 浩志 先生（新潟大学 大学院 医歯保健学研究科 放射線医学分野）

11:35 ～ 12:35 第6回 CADセミナー

共 催：富士フイルムメディカル株式会社／エルピクセル株式会社

世話人・座長：青木 隆敏 先生（産業医科大学）

講演1：「富士フイルムの医療AI～胸部領域を中心に～」

大島 俊介 先生（富士フイルムメディカル株式会社）

動画プログラム

：「CT 検診における画像診断支援AIの活用とソリューション紹介」

エルピクセル株式会社

講演2：「CT 検診におけるCADとAIの現状と将来展望」

大野 良治 先生（藤田医科大学 医学部 放射線診断学

同 先端画像診断・人工知能共同研究講座）

13:05 ～ 14:05 第19回 技術セミナー

共 催：キヤノンメディカルシステムズ株式会社

世話人・座長：入江 剛弘 先生（京都工場保健会）

講演1：「キヤノンCTが提供する新たな胸部領域の臨床価値」

宮澤 大輔 先生（キヤノンメディカルシステムズ株式会社）

講演2：「一般病院におけるマルチポジションCT、運用と可能性
導入経緯と検診への応用」

中村 仁志 先生（社会医療法人社団カレスサッポロ カレス記念病院
診療技術部放射線科）

質疑応答

14:15 ～ 15:15 第7回 COPDセミナー

世話人・座長：大野 良治 先生（藤田医科大学 医学部 放射線診断学

同 先端画像診断・人工知能共同研究講座）

講演：「COPDのCT画像解析」

田辺 直也 先生（京都大学医学部附属病院 呼吸器内科）

15:25 ～ 16:25

第8回 大腸CTセミナー

共 催：株式会社伏見製薬所／キヤノンメディカルシステムズ株式会社

世話人・座長：服部 昌志 先生（山下病院）

講演 1：「伏見製薬における大腸CT検査普及への取り組み

～大腸CT用経口造影剤コロنفォート内用懸濁液25%のご紹介～」

片岡 洋 先生（株式会社伏見製薬所）

講演 2：「大腸CT検査のアップデート

～ Aquilion Serve がもたらす新たな価値の創出」

伊藤 恭子 先生（キヤノンメディカルシステムズ株式会社）

講演 3：「大腸CT：過去、現在、未来」

松本 啓志 先生（川崎医科大学 消化器内科学）

16:25 ～ 16:30 閉会挨拶

～お知らせ～

本セミナーに参加いただくと、以下の単位を取得できます。

・肺がんCT検診認定機構

認定医師および認定技師更新単位

認定医師：読影セミナー、COPDセミナーへの参加… 5単位

認定技師：セミナーへの参加… 7単位

・日本大腸CT専門技師認定機構

大腸CT専門技師の資格更新に係る研修単位… 5単位

・日本X線CT専門技師認定機構

X線CT認定技師更新単位（Ⅱ-3 1日以上）… 6単位

第29回 読影セミナー

世話人・座長：石川 浩志 先生（新潟大学 大学院 医歯保健学研究科 放射線医学分野）

良悪鑑別の基本とピットフォール

石川 浩志 先生（新潟大学 大学院 医歯保健学研究科 放射線医学分野）

良悪鑑別の基本とピットフォール

新潟大学 大学院 医歯保健学研究科 放射線医学分野

石川 浩志

日本CT検診学会肺癌診断基準部会は、2024年3月に「低線量CTによる肺がん検診の肺結節の判定基準と経過観察の考え方」(以下「考え方」)を第6版に改訂した。本セミナーでは、過去2回にわたり、この「考え方」をテーマとして取り上げてきた。この「考え方」に則ることで、低線量CTで発見される多くの肺結節に対して適切に対応することが可能である。

CTは、検診で発見された肺結節をはじめ、肺結節の精密検査において中心的な役割を担っている。典型的な画像所見を示す症例では、確定診断に近い診断能を発揮する一方で、実際には非典型的な画像所見を呈する症例も少なくない。また、肺がんと類似した画像所見を示す良性疾患も存在するため、診断はしばしば複雑となる。そのような病変について理解を深めることは、CT検診の読影において有意義であると考えられる。

本セミナーでは、まず肺結節の良悪性鑑別の基本について解説する。続いて、非典型的な画像所見を呈する肺がん（良性病変に類似した症例）や、肺がんに類似した画像所見を示す良性疾患について、症例を提示しながら解説する。また、肺がんは単純X線写真のみならず、CTにおいても見落とされることが報告されており、「考え方」では読影時の留意点やピットフォールについても記載されている。時間が許せば、そのような見落としやすい症例についても提示したい。

石川 浩志 (いしかわ・ひろゆき)

新潟大学大学院医歯保健学研究科 放射線医学分野 教授

略 歴

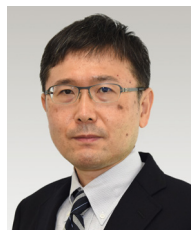
1995年3月 新潟大学医学部医学科卒業
1995年5月～ 新潟市民病院 内科研修医
1997年5月 新潟大学医学部放射線医学教室入局
1997年5月～ 新潟大学医学部付属病院 放射線科医員
1998年4月～ 新潟県立がんセンター病院 放射線科医師
1999年5月～ 新潟県立中央病院 放射線科医師
2000年4月 新潟大学大学院医学研究科入学
2004年3月 新潟大学大学院医学研究科修了(医学博士)
2004年4月～ 新潟大学医歯学総合病院 放射線部 助教
2012年4月～ 新潟大学医歯学総合病院 放射線診断科 講師
2020年9月～ 新潟大学大学院医歯学総合研究科 放射線医学分野 教授
2026年4月～ 新潟大学大学院医歯保健学研究科 放射線医学分野 教授(大学院改組)

資 格

日本医学放射線学会・日本専門医機構 放射線科専門医、放射線診断専門医
日本医学放射線学会 研修指導者
肺がんCT検診機構 肺がんCT検診認定医師
日本核医学会 PET核医学認定医

所属学会

日本医学放射線学会 代議員
胸部放射線研究会 幹事
日本CT検診学会 理事
呼吸機能イメージング研究会 世話人
日本X線CT医学会 評議員
日本肺癌学会
日本核医学会
日本放射線腫瘍学会
日本IVR学会
北米放射線学会



第7回 CAD セミナー

共 催：富士フイルムメディカル株式会社／エルピクセル株式会社

世話人・座長：青木 隆敏 先生（産業医科大学）

1) 富士フイルムの医療AI ～胸部領域を中心に～

大島 俊介 先生（富士フイルムメディカル株式会社）

2) CT検診における画像診断支援AIの活用とソリューション紹介

エルピクセル株式会社

3) CT検診におけるCADとAIの現状と将来展望

大野 良治 先生（藤田医科大学 医学部 放射線診断学

同 先端画像診断・人工知能共同研究講座）

富士フィルムの医療AI～胸部領域を中心に～

富士フィルムメディカル株式会社 ITソリューション事業本部 事業推進部

大島 俊介

現代の医療現場は技術革新の波により大きな変革を迎えています。特にデジタル技術とITの融合は、診断から治療、患者管理に至るまで、医療の質と効率を飛躍的に向上させる重要な要素となっています。

こうした背景のもと、富士フィルムの医療AI技術ブランド「REiLI (レイリ)」のもと、当社がこれまで培ってきた画像処理技術と、最先端AI技術を組み合わせることで、画像診断における医師の診断支援やワークフローの効率化を実現し、より良い医療の実現を目指していきます。当社が展開する「REiLI (レイリ)」は、画期的な臨床的価値と新たなソリューションの実現を目指し、医師の診断精度向上や業務効率化を多角的に支援するシステムを提供しています。これにより、医療現場の負担軽減と患者の安全性向上に寄与すべく、日々開発を重ねています。

当社の医療IT商材の中核であるSYNAPSE SAI viewer (以下、SAI viewer) は2019年のリリース以降、胸部CTにおける肺結節検出をはじめとした放射線画像診断のワークフロー効率化に注力してきました。数年をかけて、胸部領域で培ったフレームワークをCTの頭部・腹部領域へと拡大し、近年ではMRIの頭部および骨盤領域におけるソリューションもリリースしています。

本講演では、SAI viewerに搭載された胸部領域のソリューションについてご紹介します。

大島 俊介 (おおしま・しゅんすけ)

富士フィルムメディカル株式会社 ITソリューション事業本部 事業推進部

略 歴

2007年 富士フィルムメディカル株式会社 入社

2026年 現職

CT 検診における画像診断支援AIの活用と ソリューション紹介

エルピクセル株式会社

本動画（約5分）では、CT検診における画像診断支援AIの最新の活用方法について、以下のテーマでご紹介します。

- エルピクセル株式会社：画像診断支援AI「EIRL」の紹介
- 連携ソリューションの機能紹介：キヤノンメディカルシステムズ社「Abierto RSS」および「Chest CT Basic」の主要機能とワークフローへの組み込み
- CT検診におけるAI活用：低線量CT検診の現状とAI導入の課題

CT 検診における CAD と AI の現状と将来展望

藤田医科大学 医学部 放射線診断学／同 先端画像診断・人工知能共同研究講座
大野 良治

低線量 CT 肺がん検診は National Lung Screening Trial や NELSON Study などのランダム化比較試験によって、その有効性が示唆され、欧米のみならず、韓国や台湾などのアジア圏でも実施された。しかし、わが国で対策型検診として行われている肺がん検診は、胸部 X 線検査および重喫煙者に対する胸部 X 線検査＋喀痰細胞診の併用法であり、低線量 CT による肺がん検診は肺癌死亡率減少効果についての十分な証拠がないため、対策型検診として推奨されていなかった。しかし、2025 年 10 月厚生労働省において対策型低線量 CT 肺がん検診導入に向けた検討が開始されている。その一方で、2000 年以降の多列検出器型 CT (Multi-Detector Row CT：以下 MDCT) や面検出器型 CT (Area-Detector CT：以下 ADCT) の普及は CT 検査件数の増加および多相撮影が可能になり、CT 検査における X 線被曝増加が社会的問題として国内外で指摘され続けている。

このような状況下で低線量 CT を用いた肺がん検診において中心となる CT 技術としては、①各医用機器メーカーによる CT 撮像における各種被曝低減技術の開発と臨床応用と②2010 年代以降に継続的に開発及び改良や臨床応用が進められた従来再構成法であるフィルタ補正逆投影 (Filtered Back Projection：以下 FBP) 法に代わる新たな再構成法である逐次近似応用再構成 (Hybrid-Type Iterative Reconstruction：以下 Hybrid-Type IR) 法、逐次近似再構成 (Model-Based Iterative Reconstruction：以下 MBIR) 法および深層学習応用再構成 (Deep Learning Reconstruction：以下 DLR) 法の臨床応用による更なる X 線被曝低減と画質改善があげられる。

一方、結節検出などの読影補助に関する中心的な技術としては 1990 年代より継続的な開発、改良や臨床応用研究などがなされた①コンピュータ支援診断 (Computer-Aided Diagnosis：以下 CAD) による肺結節検出を目的としたコンピュータ支援結節検出 (Computer-Aided Detection：以下 CADe) やコンピュータ支援結節容積評価 (Computer-Aided Volumetry：以下 CADv) および同様の目的に即した②人工知能 (Artificial Intelligence：以下 AI) があげられ、その臨床実装も現在進められている。

本講演では上記を鑑みて低線量 CT 肺がん検診を含めた 1) CAD と AI の現状と将来展望を述べるとともに、2) CAD および AI を活用する際の最新 CT 撮像技術による影響や考慮すべき事項などを最新研究知見を交えて解説する。

大野 良治（おおの・よしはる）

藤田医科大学 医学部 放射線診断学 主任教授
同 先端画像診断・人工知能共同研究講座長（兼務）



学歴および職歴

1993年3月 神戸大学 医学部 卒業
1998年3月 神戸大学大学院 医学研究科 内科学系放射線医学 修了
2000年7月 Pennsylvania大学 放射線科 Pulmonary Functional Imaging Researchに
Research fellowとして留学
2003年1～3月 Harvard Medical School Beth Israel Deaconess Medical Center
文部科学省在外研究動向調査員として派遣
2004年4月 神戸大学大学院 医学系研究科 産学官連携研究員（助教授相当）
2009年4月 神戸大学大学院 医学研究科 特命准教授
神戸大学医学部附属病院 放射線部長（併任）
2012年4月 神戸大学大学院 医学研究科 放射線医学分野 機能・画像診断学部門 特命教授
同 先端生体医用画像研究センター長（併任）
2019年4月 藤田医科大学 医学部 放射線医学教室 臨床教授
同 先端画像診断共同研究講座 講座長（兼務）
2023年6月 藤田医科大学 医学部 放射線診断学 主任教授
同 先端画像診断共同研究講座 講座長（兼務）
2025年4月 藤田医科大学 医学部 放射線診断学 主任教授
同 先端画像診断・人工知能共同研究講座 講座長（兼務）

現在に至る。

所属学会・研究会（役職）

Asian Society of Thoracic Radiology (Executive Committee Member)
European Society of Thoracic Imaging (Board Member)
International Society of Magnetic Resonance Imaging (Annual Meeting Program Committee Member)
International Workshop of Pulmonary Functional Imaging (Board Member)
Radiological Society of North America (Scientific Program Committee Member)
The Fleischner Society (Secretary)
日本肺癌学会（評議員）
日本磁気共鳴医学会（代議員）
日本CT検診学会（理事、CAD部会長）
日本胸部放射線研究会（代表幹事）
日本呼吸機能イメージング研究会（副代表幹事）
日本呼吸器核医学分科会（幹事）

賞 罰

2002年 5月 日本気管支学会（現 日本呼吸器内視鏡学会）大畑賞
2003年 7月 International Society for Magnetic Resonance in Medicine,
Young Investigator Award, Moore's Award Finalist
2005年 4月 日本医学放射線学会、第17回優秀論文賞
2005年 4月 日本医学放射線学会、第64回日本医学放射線学会電子ポスタ大会長賞
2012年 2月 呼吸機能イメージング研究会、第5回学術集会大会長賞
2012～2016年12月 Radiological Society of North America,
Radiology Editor's Recognition Award with Distinction
2017年12月～現在 Radiological Society of North America,
Radiology Editor's Recognition Award with Special Distinction
2018年 9月 第46回日本磁気共鳴医学会大会大会長賞
2022年12月 Radiological Society of North America, Honored Educator Award
2023年12月 Radiological Society of North America, Honored Educator Award
2024年 8月 International Workshop of Pulmonary Functional Imaging, John West Award
2024年12月 Radiological Society of North America, Honored Educator Award
2025年12月 Radiological Society of North America, Lifetime Honored Educator Award

第19回 技術セミナー

共催：キヤノンメディカルシステムズ株式会社

世話人・座長：入江 剛弘 先生（京都工場保健会）

1) キヤノンCTが提供する新たな胸部領域の臨床価値

宮澤 大輔 先生（キヤノンメディカルシステムズ株式会社）

2) 一般病院におけるマルチポジションCT、運用と可能性
導入経緯と検診への応用

中村 仁志 先生（社会医療法人社団カレスサッポロ カレス記念病院 診療技術部放射線科）

キヤノンCTが提供する新たな胸部領域の臨床価値

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 関西支社 営業推進部 CT推進課部
宮澤 大輔

近年、胸部CT検診は、微小肺結節やすりガラス影（Ground Glass Opacity：GGO）など胸部疾患の早期発見を目的として、画質向上と低被ばく化の両立がこれまで以上に求められている。さらに、Deep Learning技術の進歩により、画像再構成のみならず画像処理やモーション補正へAI[※]を応用した技術が実用化され、胸部検診領域においてもその有用性が期待されている。

本発表では、キヤノンCTが提供するDeep Learning技術の特長と、胸部CT検診における活用の可能性についてご紹介する。

※設計の段階でAI技術を使用しており、本システムは自己学習機能を有しておりません

宮澤 大輔（みやざわ・だいすけ）

キヤノンメディカルシステムズ株式会社

関西支社 営業推進部 CT推進課

略 歴

2001年 3月 京都医療技術短期大学 卒業

職 歴

2001年 4月 第二京都回生病院 入職

2004年 4月 蘇生会総合病院 入職

2008年 4月 木沢記念病院 入職

2013年 4月 東芝メディカルシステムズ株式会社CT営業部 入社

2016年 1月 同 中部支社 営業推進部

2026年 1月 キヤノンメディカルシステムズ 関西支社 営業推進部

資 格

2001年 4月 診療放射線技師



一般病院におけるマルチポジションCT、運用と可能性 導入経緯と検診への応用

社会医療法人社団カレスサッポロ カレス記念病院 診療技術部放射線科
中村 仁志

当院は2025年4月、同法人である2病院が統合し、カレス記念病院（320床）として開院した。開院時はキヤノン社製CT装置Aquilion ONE /PRISM N-UX Edition 1台での運用であったが、1年経った今年4月、立位・座位・臥位での撮影が可能なマルチポジションCTであるAquilion Riseが2台目として稼働。全国的にみても一般病院での導入は少なく、その導入経緯と初期の使用経験、そして今後の可能性について報告する。

立位CTは荷重下で重力の影響を受けた状態で撮影できるという、従来の臥位CTでは得られなかった新たな臨床情報を提供するモダリティとして注目されている。姿勢変化に伴う骨格や関節の形態変化、肺野内における異常影の視認性向上など、その有用性が期待されている。しかし一方で、立位撮影のみの専用装置であれば、検査対象や運用面、費用対効果の観点から、一般病院における日常診療の中で十分に活用することは容易ではない。この度導入されたマルチポジションCTは、立位CTの臨床的価値を活かしながら、既存のCT診療体制を維持でき、通常のCT検査を担う2台目の装置として運用することができる。これにより、日常診療における実用性と、立位CTによる新たな臨床価値の創出を両立することを目指した。

検診領域においても、肺がん検診における立位撮影のメリットは多く、被検者からの反応も概ね好評である。現状、検診は肺がん検診のみの運用ではあるが、立位による低線量撮影は姿勢など運動器評価への応用も期待でき、検診領域における立位CTの可能性を感じる。



立位モード



座位モード



臥位モード

中村 仁志（なかむら・ひとし）

社会医療法人社団カレスサッポロ カレス記念病院 診療技術部放射線科

学 歴

1999年 岐阜医療技術短期大学卒業

2003年 日本福祉大学福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科卒業

職 歴

2000年 医療法人社団医修会 大川原脳神経外科病院入職

2013年 社会医療法人社団カレスサッポロ 北光記念病院入職

2025年 現職

資 格

X線CT認定技師

医療画像情報制度管理士

放射線管理士

放射線機器管理士

画像等手術支援認定診療放射線技師

Ai認定診療放射線技師

放射線被ばく相談員



第7回 COPD セミナー

世話人・座長：大野 良治 先生（藤田医科大学 医学部 放射線診断学／同 先端画像診断・人工知能共同研究講座）

COPD の CT 画像解析

田辺 直也 先生（京都大学医学部附属病院 呼吸器内科）

COPDのCT画像解析

京都大学医学部附属病院 呼吸器内科

田辺 直也

慢性閉塞性肺疾患（COPD）は、肺気腫と末梢気道病変が複合的に関与する疾患であり、スパイロメトリによる気流閉塞（1秒率＜70％）で診断される。禁煙のみでは不十分なことも多く、吸入薬などによる介入が増悪リスクを軽減し予後改善につながるため、積極的な診断が求められる。胸部CTによる肺気腫の定量評価では、CT値－950 HU未満の低吸収域が病理学的肺気腫と相関し、5％以上で増悪・死亡リスクが増加する。気道評価においては、中枢気道壁肥厚（WA％）の定量化、超高精細CTによる末梢気道（内径1mmまで）の直接評価、および呼気CTによるエアートラッピング（SAD）の検出が可能である。肺気腫サブタイプとして、小葉中心性肺気腫（CLE）は末梢気道病変・急速な肺機能低下・予後不良と関連し、気道Dysanapsisは肺発育不全を背景としたCOPD発症と関連する。また、肺癌スクリーニングCTにおける肺気腫・CLE・気道壁肥厚の組み合わせは、スパイロメトリ未施行者のCOPD検出に有用である。加えて、気道粘液栓は増悪リスク・健康寿命低下と関連し、脊柱起立筋量や冠動脈石灰化などの肺外臓器評価も予後予測に寄与する。CTを活用した包括的評価により、個別化されたCOPD管理の実現が期待される。

田辺 直也（たなべ・なおや）

京都大学医学部附属病院 呼吸器内科

略 歴

2003年 3月	京都大学医学部卒業
2003年 5月～2004年 5月	京都大学医学部附属病院（内科研修医）
2004年 6月～2005年 5月	独立行政法人国立病院機構姫路医療センター（内科研修医）
2005年 6月～2008年 3月	市立岸和田市民病院 呼吸器内科
2008年 4月～2012年 3月	京都大学大学院医学研究科博士課程（医学専攻 呼吸器内科学）
2012年 4月～2014年 8月	滋賀県立成人病センター 呼吸器内科
2014年 9月～2017年 3月	ブリティッシュコロンビア大学（カナダ）、ポスドク研究員
2017年 4月～2017年 6月	京都大学医学部附属病院 呼吸器内科 医員
2017年 7月～2021年 3月	京都大学医学部附属病院 呼吸器内科 特定助教
2021年 4月～2024年 9月	京都大学医学部附属病院 呼吸器内科/リハビリテーション科 助教
2024年10月～2025年12月	京都大学医学部附属病院 呼吸器内科/リハビリテーション科 病院講師
2026年 1月～	京都大学医学部附属病院 呼吸器内科 特定講師



第8回 大腸CTセミナー

共催：株式会社伏見製薬所／キヤノンメディカルシステムズ株式会社

世話人・座長：服部 昌志 先生（山下病院）

- 1) 伏見製薬における大腸CT検査普及への取り組み
～大腸CT用経口造影剤コロنفォート内用懸濁液25%のご紹介～
片岡 洋 先生（株式会社伏見製薬所）
- 2) 大腸CT検査のアップデート
～Aquilion Serveがもたらす新たな価値の創出～
伊藤 恭子 先生（キヤノンメディカルシステムズ株式会社）
- 3) キヤノンCTの検診領域での機能紹介
松本 啓志 先生（川崎医科大学 消化器内科学）

伏見製薬における大腸CT検査普及への取り組み ～大腸CT用経口造影剤コロنفォート内用懸濁液25%のご紹介～

伏見製薬株式会社 名古屋営業所
片岡 洋

弊社は2016年より大腸CT用経口造影剤「コロنفォート内用懸濁液25%」(以下、コロنفォート)を発売している。

コロنفォートは大腸CT検査の前処置「タギング(便標識)」に用いる製剤である。コロنفォートを用いた大腸CT検査ではタギングを行うことで検査精度を維持しつつ、下剤服用等の検査前処置の負担を軽減することが可能となる。コロنفォートは、大腸がん検診の精検受診率向上、大腸がんの早期発見に寄与できるものと考えている。

本発表では、コロنفォートの特徴、開発時に実施した治験(第Ⅲ相臨床試験)の成績及び使用に際しての注意事項等について紹介する。

片岡 洋 (かたおか・ひろし)

伏見製薬株式会社 東日本医薬品営業部 名古屋営業所

略 歴

2007年4月 伏見製薬株式会社 東日本医薬品営業部 東京営業所 入社

2018年4月 同 西日本医薬品営業部 大阪営業所

2022年4月 同 東日本医薬品営業部 名古屋営業所



大腸CT 検査のアップデート ～ Aquilion Serve がもたらす新たな価値の創出

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 中部支社 営業推進部 CT推進課
伊藤 恭子

大腸CT検査が確立されて現在に至るまで、正面像のスキヤノグラム（位置決め像）で撮影計画が行われ、多くのご施設ではHybrid-IRであるAIDR 3D（Adaptive Iterative Dose Reduction 3D）を用いて画像再構成が行われてきました。

その後、CT技術は進化を続け、最新のCT装置にはINSTINX^{※1}ワークフローによるカメラポジショニングや、銀フィルタを用いた低線量ヘリカルスキャンによる位置決め機能3D Landmark Scanが搭載されています。また、超解像Deep Learning 画像再構成技術であるPIQE（Precise IQ Engine）^{※2}の活用も広がりつつあります。

これらの最新技術で大腸CT検査に組み合わせることで、どのような新たな価値が創出され、従来のどのような課題の解決につながるのでしょうか。本講演では、その可能性と期待についてご紹介いたします。

※1：INSTINXは、効率と一貫性の新たな基準を確立するためにキヤノンがデザインしたワークフローの名称です。

※2：設計段階でディープラーニング技術を用いており、本システム自体は自己学習機能を有していません。

Instinctive user experience



一般的名称:全身用 X 線 CT 診断装置

販売名:CT スキャナ Aquilion Serve TSX-307A

認証番号:304ACBZX00001000

製造販売元: キヤノン株式会社

伊藤 恭子 (いとう・きょうこ)

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 中部支社 営業推進部 CT推進課

略 歴

1998年4月 東芝メディカル中部サービス株式会社入社

2018年 社名キヤノンメディカルシステムズ株式会社に変更



大腸CT：過去、現在、未来

川崎医科大学 消化器内科学

松本 啓志

大腸CT(CT colonography : CTC) は1994年にViningらによってVirtual Colonoscopyとして報告されて以来、低侵襲な大腸画像診断法として発展してきた。欧米では多数の大規模試験により高い診断能が示され、日本でも2012年に保険収載され、便潜血陽性者に対する精密検査の選択肢として位置付けられている。しかし現在でも国内の普及率は十分とは言えず、検査体制や人材育成など解決すべき課題が残されている。

本講演では、まず「過去」として、大腸CT開発の歴史、欧米と日本における発展の経緯、診断精度を確立したエビデンスについて概説する。続いて「現在」として、大腸がん検診における大腸CTの役割、前処置の低侵襲化、診療放射線技師へのタスクシフト、標準化された撮像・読影法、AI読影支援、被ばく低減技術など近年の進歩を紹介し、大腸CTを取り巻く最新の状況を整理する。さらに「未来」として、AIによる診断支援、超低線量撮影、無下剤前処置、平坦病変検出能の向上、画像解析技術の進歩、さらには画像バイオマーカーや個別化検診への応用など、今後期待される技術革新について展望する。

大腸CTは、大腸内視鏡検査を代替する検査ではなく、それぞれの長所を生かして相補的に活用することで、大腸がん検診全体の質向上に貢献できる可能性を有している。本講演では、「過去を学び、現在を理解し、未来を描く」という視点から、大腸CTのこれまでの歩みと今後の方向性について概説したい。

松本 啓志 (まつもと・ひろし)

川崎医科大学 消化器内科学

学歴および職歴

平成 7 年 3 月	川崎医科大学 卒業
平成 16 年 3 月	川崎医科大学 大学院 卒業
平成 7 年 5 月～平成 9 年 3 月	川崎医科大学附属病院 内科 研修医
平成 9 年 4 月～平成 10 年 3 月	倉敷記念病院 内科
平成 10 年 4 月～平成 12 年 3 月	川崎医科大学 内科学 消化器Ⅱ 臨床助手 内科 消化器Ⅱ シニアレジデント
平成 12 年 4 月～平成 14 年 3 月	医療法人 姫路第一病院 内科
平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月	医療法人 小島病院 内科
平成 16 年 4 月～平成 17 年 8 月	川崎医科大学 内科学 (食道・胃腸) 臨床助手 同 附属病院 食道胃腸内科 シニアレジデント
平成 17 年 9 月～平成 21 年 2 月	カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 医学部 消化器部門 リサーチフェロー
平成 22 年 3 月	川崎医科大学 内科学 (食道・胃腸) 講師
平成 28 年 11 月	国立がん研究センター 社会と健康研究センター 検診開発研究部 外部研究員 (併任)
平成 29 年 4 月	川崎医科大学 内科学 (食道・胃腸) 准教授
令和 4 年 4 月	川崎医科大学 内科学 (消化器内科) 准教授
現在に至る	



資 格

日本内科学会認定医
日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医
日本消化器病学会 専門医・指導医
日本消化管学会 胃腸科専門医・胃腸科指導医
日本ヘリコバクター学会 *H.pylori* 感染症認定医
日本カプセル内視鏡学会 認定医
日本消化器がん検診学会 胃・大腸認定医

賞 罰

平成 15 年 9 月 11th United European Gastroenterology Week (UEGW) Best abstract Award
平成 16 年 4 月 川崎祐宣記念特別奨学基金
平成 16 年 9 月 Blinder Research Fellowship David Geffen Medical School of Medicine at UCLA
令和 2 年 3 月 第 15 回日本消化管学会総会 優秀演題賞
令和 4 年 4 月 日本消化器病学会 臨床研究助成
令和 5 年 4 月 日本内視鏡医学財団 研究助成
令和 8 年 4 月 日本内視鏡医学財団 研究助成

所属学会

日本内科学会 (認定内科医)、日本消化器病学会 (専門医、指導医)、日本消化器内視鏡学会 (専門医、指導医)、日本消化管学会 (専門医、指導医) 日本カプセル内視鏡学会 (専門医、指導医)、日本消化器がん検診学会 (総合認定医) 日本ヘリコバクター学会 (認定医)、日本メディカルAI学会 (公認資格取得メディカルAI専門コース、機械学習・深層学習コース修了)、日本炎症性腸疾患学会、日本腸内細菌学会、日本消化管バーチャルリアリティ学会、アメリカ消化器病学会正会員 (AGA)

大腸CTの腸管拡張のために CT Colonography

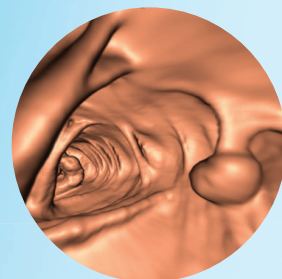
大腸CT検査用 炭酸ガス自動送気装置 プロトCO₂Lタッチ™

プロトCO₂Lタッチ™

医療機器認証番号 306ADBZX00078000

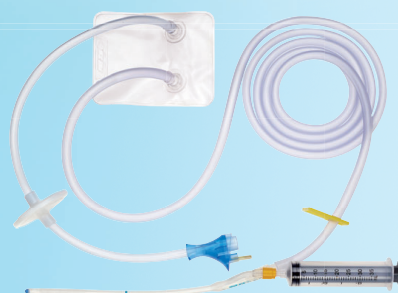
プロトCO₂Lタッチカテーテル™

医療機器認証番号 306ADBZX00079000



PROTOCO₂L
TOUCH®

プロトCO₂Lタッチ™



注：弊社ではガスボンベは取り扱っておりません。
日本薬局方「二酸化炭素」を別途ご用意ください。

※ プロトCO₂LおよびプロトCO₂Lタッチ用カートです。

製造販売元



ブラッコ・ジャパン株式会社

販売元



株式会社メッツ

《製品に関するお問い合わせ先》ブラッコ・ジャパン株式会社 技術サービスセンター
フリーダイヤル 0120-229-551 (平日午前9時～午後5時まで)



LIFE FROM INSIDE

電子添文

プロトCO₂Lタッチ



プロトCO₂Lタッチカテーテル



活性生菌製剤 酪酸菌配合剤

ビオスリー® 配合OD錠

BIO-THREE® OD Tablets



4. 効能又は効果

腸内菌叢の異常による諸症状の改善

6. 用法及び用量

通常成人1日3～6錠を3回に分割経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

7. 用法及び用量に関連する注意

本剤は口腔内で崩壊するが、口腔粘膜から吸収されることはないため、唾液又は水で呑みこむこと。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤交付時の注意

14.1.1 PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある。

14.1.2 本剤は舌の上にのせて唾液を浸潤させると崩壊するため、水なしで服用可能である。また、水で服用することもできる。

◇ビオスリー配合OD錠◇

有効成分	1錠中 ラクトミン 2mg 酪酸菌 10mg 糖化菌 10mg
色調	白色～わずかに黄褐色
におい	においはないか、又はわずかに特異なにおい
味	やや甘い

2022年4月改訂(第1版)の電子化された添付文書に基づき作成

●詳細は電子化された添付文書をご参照ください。 *電子化された添付文書の改訂に十分ご注意ください。

2025年5月作成

発売元・文献請求先 及び 問い合わせ先



東亜新薬株式会社
健康と向き合い 健康に挑戦 暮らしを豊かに

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-2-11
TEL 03(3347)0770 FAX 03(3347)0780
<https://www.toashinyaku.co.jp>

製造
販売元



東亜薬品工業株式会社

販売



鳥居薬品株式会社

日本CT検診学会
夏期セミナー 2026 抄録集

2026年7月25日発行

発行：特定非営利活動法人日本CT検診学会

連絡先：特定非営利活動法人日本CT検診学会事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15 6F

株式会社クバプロ内

TEL：03-3238-1689 E-mail：jscts-office@kuba.jp

URL：http://www.jscts.org/
